

みえスマートライフ推進協創プロジェクトにおける今後の取組方向

1. 産学官連携プロジェクト化の促進

環境・エネルギー技術の活用による新たなビジネスの創出に向け、産学官の連携によるプロジェクト化を促進し、環境・エネルギー産業の育成・集積を図ります。

(1) 桑名プロジェクト関係

「桑名プロジェクト」では、第3回検討会（7月25日）、EV活用検討分科会（7月31日、8月6日）を開催し、桑名市の住宅団地（陽だまりの丘）をフィールドに、EV車両のシェア事業、住居等へのエネルギーマネジメントシステム導入など、地域コミュニティでの環境・エネルギー関連技術を活用したプロジェクトの検討を進めています。

今後は、企業等と連携し、HEMSを活用したエネルギーマネジメントの検討など、さらなる取組の具体化を行っていきます。

(2) 熊野プロジェクト関係

「熊野プロジェクト」では、熊野地域の木質バイオマスを活用したエネルギーの地域自立システムの構築に向けたプロジェクトの検討を開始しました。具体的には、急峻な山林からの効率的・迅速な集材システムや人材育成のほか、需要先の調査や事業採算性等の検討を進めていくこととしています。

また、第1回マイクロ水力発電分科会（5月20日）を開催し、熊野市内の農業用水路にて、現在、実証実験を行っているマイクロ水力発電装置の商品開発に向けた検討を行いました。

引き続き、実証実験を継続し、商品開発に向けた課題抽出を進めます。

(3) スマートアイランドプロジェクト関係

「スマートアイランドプロジェクト」では、第3回検討会（6月2日）を開催し、非常電源実証実験について検討しました。

今後、太陽光発電による地産地消エネルギー検討分科会、小型電動モビリティによる島内交通検討分科会などの設置を進め、さらなる取組の具体化を行っていきます。

(4) その他の取組

未利用柑橘類からバイオ燃料（バイオブタノール）を製造する研究開発プロジェクトでは、昨年度に引き続き、県内中小企業等が、新エネルギーベンチャー技術革新事業（NEDO）を受託し、基盤的な技術開発を進めています。

また、バイオマス発電所等で発生する低温未利用排熱の水産業への活用などについて、県内中小企業等が検討を進めています。

今後も引き続き、「みえスマートライフ推進協議会」を運営する中で、産学官のネットワークを拡充するなど、新たなプロジェクトを生み出す環境づくりに努めます。

2. 新エネルギーの導入促進

エネルギーの安定供給に地域から貢献していくため、新エネルギーの導入を促進し、災害時にも有効となる分散型エネルギーシステムの構築を促進します。

(1) メガソーラー等による地域エネルギーの創出

太陽光発電や風力発電等に取り組む事業者からの相談への対応や情報提供を実施するとともに、メガソーラーなどの新エネルギーの整備を契機とする環境教育や防災対策等の地域貢献等を支援することにより、より多くの県民の方々に新エネルギーのPRを行い、環境・エネルギー問題の意識向上を図り、新エネルギーの普及促進につなげます。

(2) 新エネルギーの導入支援

新エネルギーの導入を促進するためには、特色あるまちづくり・地域づくりの視点で行うことが効果的であることから、市町や住民のコミュニティ組織が取り組む新エネルギーを活用したまちづくり・地域づくりへの支援を通じて、新エネルギーの普及促進を図ります。

また、新エネルギーのさらなる普及を促進するため、今年度に入り、環境省の「再生可能エネルギー等導入推進基金事業」（グリーンニューディール基金）の採択を受けました。この事業により、防災拠点や避難所等の施設に、太陽光発電などの再生可能エネルギーや蓄電池を導入し、「災害に強く、低炭素な地域づくり」を行います。